

春日部市立医療センター情報公開・オプトアウト 様式

承認番号：倫研 2022 - 007 (KMC C2022-007)	
研究課題名	体位性斜頭症の頭蓋形状変化に伴う、顔面変形、斜視の関連の有無についての研究
研究責任者	小児科主任部長 宮林寛
共同研究施設	日本大学医学部付属板橋病院 小児科 准教授 長野 伸彦 氷川台のと小児科クリニック 小児科 氏名 能登孝昇
研究目的・方法	研究 1：体位性斜頭症（以降斜頭症）が重症となると、耳介の偏移や顔面の変形がみられることがわかっている。斜頭症の重症度評価は見た目で評価する Argenta 分類 1)と、頭蓋の矢状線から 30° の対角線の差の比率で評価する Cranial vault asymmetry index（以降 CVAI）2)が存在する。しかしその関連を報告したものはない。Argenta 分類のグレードがどの程度の CVAI 値に相当するかを明らかにする。 研究 2：斜頭症の鑑別疾患に先天性頭蓋骨縫合癒合症があり、前頭部の骨縫合が早期に癒合することで、眼窩周囲の骨変形が生じ、斜視を伴うことが報告 3)されている。しかし、斜頭症と斜視の関連に関しても明らかでない。現在斜視のスクリーニングとして Spot Vision Screener®（SVS）が生後 6 か月以降で使用が可能であり、数秒で斜視の判定が可能である。もともと斜視と判定されている児と SVS にて斜視判定のない児の頭蓋形状を測定することで、斜頭症の合併症に斜視が関連するかを明らかにする。 定量的に変形度合いを算出。 健診を行う小児科医の乳幼児の頭蓋変形に関する理解を促進することを目指し、頭蓋変形治療方針確立の一助とする。
対象となる方 及び対象期間	2020 年 4 月から 2022 年 4 月までに春日部市立医療センター小児科および本研究に参加する施設で 3D スキャンによる計測をした児を対象とする。 （当院倫理承認番号倫研 2019-032、2020-020、2020-026、2021-007）
利用する情報など	3D 計測した値（CA、CVAI、Argenta 分類）

個人情報の取扱い	個人情報は、連結可能匿名化で保護される。
お問い合わせ先	春日部市立医療センター 小児科
備 考	利益相反： ☐ 有 ☒ 無

承認日：2022 年 5 月 11 日